

突発性発疹

Q1.どんな病気？

突発性発疹はヘルペスウイルス6型による主に乳児期(0歳)の後半にみられる感染症です。(2ヵ月~1歳半まで可能性はあります)感染ルートは唾液を介して母→子の垂直感染が考えられています。

大体のこどもが一度は罹りますが、症状が典型的でなく、はっきりしないで気づかずに終わってしまうこともあります。またヘルペス7型も同じような症状があるともいわれ、その他にも熱や発疹のみられる病気は多いので何回か同じような病気を繰り返すように見えるこどももいます。

Q2.主な症状は？

突然38℃以上の発熱がおこり、大体3日くらい続きます。その後解熱とともに体に(顔、胸、腹などが多い)にピンク色の発疹がでます。突発性発疹が生まれて初めての発熱というこどもが76%いるそうです。

他の症状としては、咳・鼻水などの軽いカゼ症状、発熱時の不機嫌、下痢などがありますが、食欲が保たれていたり、比較的元気で重症感が少ないことが多いようです。(まれに熱性けいれん、肝機能異常などがみられます)発疹は2~3日でだんだん消えてきます。

Q3.治療、手当ては？

ウイルスによる病気で特別な治療はありません。(時期が来れば自然に治まるということです)咳や下痢、発熱などの症状が強くてつらそうな時にはそれぞれの症状を和らげる薬を使えば良いでしょう。

高い熱が出ているとき、無理に厚着にしたりくるんだりしないで、体から熱を外に逃がすようなつもりで着せてください。

食事は食欲に応じて与えましょう。水分はなるべくしっかりと与えてください。(こどもは水分をとれているかどうか重症度の参考になります)

お風呂は熱が下がり、発疹が消えてきたら入れます。